

# 総括質疑

9月11日、令和4年度の決算について、予算決算常任委員会の総括質疑が行われ、湯和会・公明、政和会、湯沢政策研究会からそれぞれ1人が会派を代表して質疑を行い、令和4年度各予算の決算の内容についていただきました。ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。



「湯和会・公明」  
佐藤 愛子 委員



## ■ふるさと納税推進事業について

**質疑** ふるさと納税のサイトは10件も必要なのか伺う。縮小し、例えば商品開発や湯沢の魅力の紹介ページを濃くするなどプラスアルファで活用できないか伺う。

**答弁** サイトを増やすことで広く寄附の内容を見られるようにすることが大切と考える。今年度初めての試みでこれまでの寄附者に対し、日頃の御礼と年末調整のPRに向けたお願いの葉書を出すため現在準備を進めている。

## ■結婚サポート事業について

**質疑** 今の若い世代の人達には直接人と会って話すのが苦手な人も多いようなので、ゲーム感覚を取り入れたコミュニケーション世界の中で結婚に意識を持たせていくようなシステムはどうか伺う。

**答弁** アバターを使った仮想空間での婚活イベントを今年度から実

施する予定。婚活イベントに参加してもらうことが非常に高いハードルと捉えており、仮想空間を使うことでより積極的に、より多くの方々が利用・参加しやすい形で実施したいと考えている。

## ■湯沢の魅力情報発信事業について

**質疑** わらび座フレンドリータウン協定を結んだ効果はあったのか伺う。

**答弁** 相互の魅力発信に関しては一定の効果はあったものと考えているが、その他の取組はまだ実施できていない。今後、相互に連携協力できる取組について協議していきたい。

## ■重層的支援体制整備事業（障がい支援）について

**質疑** 支援が必要な方でも自分から相談できる方は少ないと思う。相談しやすいようホームページ等の相談支援の案内に、写真やイラスト、実体験談を掲載できないか伺う。

**答弁** 必要な支援を届けるためにはアウトリーチ支援が非常に重要だと考える。市としては他機関と連携してそのような方の状況を確認し合いながら、民生委員をはじめとした地域の方のご協力をいただき引き続き支援に当たりたいと考えている。市民への周知も重要だと考えるので掲載内容について

も検討していく。

## ■子ども・子育て訪問事業について

**質疑** 産前・産後家事ヘルパー事業は今後もっと必要になっていく。申請窓口実際に利用できることとできないことや、実際に利用した方の声を載せるなど周知活動に力を入れるべきと考えるが見解を伺う。

**答弁** 母子手帳交付の際や出生届時などあらゆる機会を利用して事業の周知を図っている。利用した方から好評を得ており、口コミも広がっている。今後も支援が必要な方に利用していただけるよう周知していく。

## ■高齢者等雪対策事業について

**質疑** 老後も安心して住み続けられる湯沢市であって欲しいため申請が困難な高齢者等に対する事前の声掛けなどの対応について伺う。

**答弁** 市広報等への折込みチラシのほか、前年度の登録者に対して個別に勧奨通知を送っている。また民生委員の方や在宅介護支援センターに対し、呼び掛けや書類提出の補助協力を依頼するなど利用申請を忘れないように周知を図っている。本人による申請が困難な場合は、代理申請や郵送による受付も行っている。